

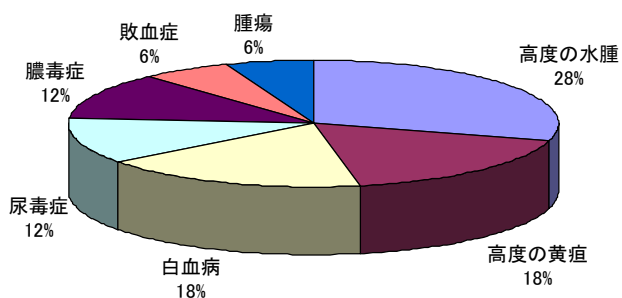
平成18年度の全部廃棄状況

全部廃棄とは、と畜検査において全身性の疾患と診断され、食用不適として枝肉やその副産物である内臓・皮・骨などを全て廃棄処分することです。

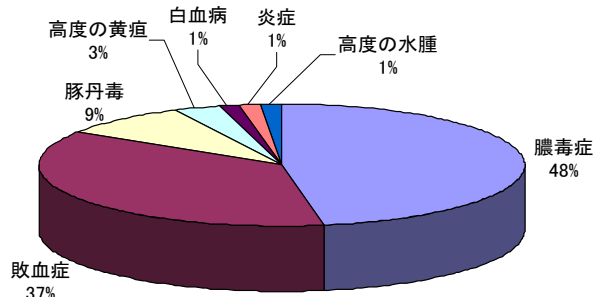
平成18年度に全部廃棄となった牛は17頭、豚は70頭でした。

原因疾病の特徴として、牛では水腫や尿毒症など肥育に関連したものが認められるのに対し、豚では膿毒症や敗血症といった細菌感染によるものがほとんどを占めます。

牛の全部廃棄理由



豚の全部廃棄理由



高度の水腫

栄養不良やビタミンA欠乏などにより、皮下や筋肉間に多量の組織液が貯留します。



膿毒症

尾咬などの傷から化膿菌が体内に侵入し、皮下や筋肉、内臓等に膿瘍を形成します。



高度の黄疸

肝臓の疾患や出血などにより、過剰なビリルビンが全身の組織に沈着し黄色を呈します。



敗血症

種々の細菌が体内に侵入し全身に病巣を形成します。写真では心臓内に形成された疣状結節を示しています。

